

太陽光発電の普及拡大に向けた課題と取り組み

岸添義彦*
田中清俊*
西尾直樹*

Issues and Activities for Diffusion of the Photovoltaic Power System

Yoshihiko Kishizoe, Kiyotoshi Tanaka, Naoki Nishio

要 旨

今世紀に入り、太陽光発電は世界的に普及の速度を上げている。これは、地球環境保護の大きな流れと、公的な普及施策が背景となっている。国内における2004年度末の累積設置容量は約100万kWと推定されており、今後も拡大が期待されている。新エネルギー導入大綱では2010年での太陽光発電システムの累積設置容量を482万kWとしており、今後更なる導入の加速をする必要がある。太陽光発電に代表される自然エネルギーを利用した分散電源の本格普及は、今までにない新しい流れである。太陽光発電システムが普及するにつれ幾つか問題が指摘されるようになってきており、大量普及時を想定して、これらのシステムが系統に与える影響について検討が進められている。ここでは、

これら太陽光発電システムの普及のための課題と取り組みについて述べる。また、太陽光発電システムは、今までどちらかと言えば太陽電池の設置に適した比較的大きな住宅に設置されるケースが多かったが、今後は、住宅の屋根形状やサイズに左右されず、どのような屋根にも効率的かつ容易に美しく設置できるシステムが要求されるようになる考える。その取り組みとして、最近開発した太陽光発電システム機器の概要・特徴などについて述べる。今後も新しいニーズを先取りした商品開発を進めるとともに、発電コスト低減を推進し、ユーザーメリットが得られるよう地道な活動を進めていく計画である。



新寄棟屋根用太陽電池モジュール「MBMシリーズ」

従来の太陽電池モジュールは長方形であり、写真に示すような寄棟屋根に設置した場合、屋根形状に合わないため十分な量の太陽電池を設置することができなかった。今回開発した新寄棟屋根用太陽電池モジュール「MBMシリーズ」は、住宅の基準寸法に最適化した5種類の形状の太陽電池を組み合わせることで、多様な形状の寄棟屋根に美しく、大容量の設置ができる。